読書嗜好尺度の開発

中　野　友香子*
佐　藤　誠　子**
深　谷　優　子***

本研究では，読書における嗜好性の個人差を把捉するため，読書嗜好尺度の開発を行った。261名の大学生が読書嗜好75項目および日本人の文芸家50名に対する読書経験（既知度・読了経験）に回答した。読書嗜好に関する項目を因子分析した結果,「1 展開の意外性受容傾向」「2 共感重視傾向」「3 読書回避傾向」「4 読書熱中傾向」「5 思索専念傾向」の5尺度から構成される読書嗜好尺度を開発した。相関分析の結果から，詩歌・俳句および推理小説の読書経験と，推測を行う態度である「5 思索専念傾向」とが関連し，さらに推理小説の読書経験と意外な展開を受け入れる「1 展開の意外性受容傾向」が関連することが示された。本結果は，読書経験が実際に読書嗜好の5尺度のどの側面と関連しているかを実証的に示したものであり，物語のなかでも推理小説の読解について，そして物語や説明文のような散文だけでなく詩歌のような韻文の読解について，そのプロセスや特徴について示唆を与えるものといえよう。

キーワード：読書，読書嗜好性，推理小説，詩歌

問題と目的

近年，文部科学省の方針や学習指導要領の改訂において，リーディング・リテラシー（読解力）が重視されてきている。そこでは，リーディング・リテラシーを「自らの目標を達成し，自らの知識と可能性を発達させ，効果的に社会に参加するために，書かれたテキストを理解し，利用し，熟考し，これに取り組む能力」と定義している（文部科学省，2010）。これはOECD（経済協力開発機構）によるPISA（Programme for International Student Assessment）において測定されるリーディング・リテラシーの特徴と，その国際比較調査の結果を反映してのものである。OECD-PISAでは，テキストは，段落で構成される連続型テキスト（continuous text）と図表などで構成される非連続型テキスト（non-continuous text），連続型テキストと非連続型テキストの両方で構成される混成型テキスト（Mixed text），両方もしくはいずれか一方のみで構成される複合型テキスト（Multiple text）に分

*教育学研究科　博士課程後期
**教育学研究科　助教
***教育学研究科　准教授

類できる（OECD, 2013）。このうち連続型テキストは複数の文や段落で構成されるテキストを指すものであり，これは従来の文章理解研究において，対象とされてきた文章とほぼ同義である。

文章理解研究においては，従来，物語と説明文とに二分されて扱われることが多く，両者の読み方が異なることが指摘されている（c.f., 井関・川崎，2006）。後者の説明文には更に複数の下位カテゴリーが想定されており，例えば，OECD-PISA では，連続型テキストは，物語（Narration），解説（exposition），記述（description），議論（Argumentation），指示（Instruction），文書または記録（Documents and records），ハイパーテキスト（Hypertext）など複数のカテゴリーに分類できるとしている（足立，2012）。一方，前者の物語は分類がなされておらず，物語の質の違いについてはあまり言及されていないといえる。

しかしながら，物語の読解と一口に言っても，内容やジャンルによって必要とされるプロセスや強調されるプロセスには濃淡がある可能性があるとも考えられる。とくに，物語のなかでも推理小説の読解には独自の読み方が関連することが予想される（cf., 小嶋・波多野，1996）。推理小説では作品の最後に大どんでん返しがあったり，自分の推理とは異なる事実が明らかになったり，作品中に意外な展開が起きることが多く，その展開の意外性がおもしろさを喚起することが考えられる。そのため，推理小説の読者には，自分の推理と整合しない情報が提供されたときに推理を修正したり，推理と反する意外な展開を許容したりするような読みが求められるといえよう。ただし，小嶋・波多野（1996）によると，読者は自身の推理と不整合な情報が出てきても必ずしもその解釈を変更するとは限らないという。この知見より，このような意外な展開を受容するかどうかという読みの個人差が存在する可能性を指摘できよう。すなわち，予想外の展開が起きやすい推理小説の読書には，想定外の情報や展開に出会ったときにそれらを受容しながら読み進めるという読みのプロセスが関連することが予想される。これは，読み進めていく中で謎が解けていくような読み方を求める推理小説の読解に特有のものと考えられる。

さらに，推理小説の読解にはこのような意外な展開を受容するという読み方に加え，推理しながら読み進めることが関連することが考えられる。推理小説では，一見すると断片的な形で伏線が張られており，それらの非連続的に得られる情報を手掛かりに推理を行っていくことが必要といえる。先の意外な展開を受容することとも関連するが，自身の推理と不整合な情報も含めて文章から得られる情報を統合し，省略された情報を復元したり，行間を埋めるように情報を拡充したりしながら読み進めることが求められる。

以上みてきたように，物語の読解といってもここで挙げた推理小説には特有の読みのプロセスが存在している可能性がある。文章を読むといっても，その文章の質や目的によって読み方は変わると考えられる。これまで一つのジャンルとしてまとめて扱われることが多かった物語の質を分けて読みのプロセスを検討するという視点は，文章理解研究において新たな視点を提供する有益なものといえよう。

ところで，ここで推理小説の読解と関連することが予想される読みのプロセスのうち，断片的な情報から表象を作り上げながら読み進めるという読み方は，スマートフォンやタブレット端末が普

及してSNSやブログ等による情報収集およびコミュニケーションが盛んになった現代の言語環境で，特に需要が高まっていると考えられる。深谷（2013）は，今日的な言語表現の特徴として，断片的で比較的小さい情報を大量に享受し，即時的対応が求められることを指摘している。このように断片的な比較的短い言語表現でのコミュニケーションが増加しつつある現代において，既有知識と言語表現を統合して情報を処理する過程を明らかにしていくことは必要なことといえるだろう。

この，断片的な文章上の表現から情報を復元・拡充し，推測しながら読み進めるという読み方は，推理小説の読書のみと関係しているとは限らない。深谷（2008）は，このような読み方が俳句や詩歌の読解にも関係する可能性を指摘している。詩歌や俳句は，字数や形式上の制約があるために，文法的には断片的な表現形態をとる（深谷，2013）。深谷（2008）では，俳句の特徴として省略が重ねられることに加え，直接的な表現を避けて，作品に投射される心情を明示しないことが指摘されている。すなわち，詩歌や俳句を表層的な意味としてではなく詩人や歌人，俳人が作品に投射した心情まで含めて理解するためには，作品中の断片的な言語表現を手掛かりとして情報を復元したり拡充したりすることが必要となる。

推理小説と詩歌・俳句には韻文と散文という形態上の違いがあるものの，このように断片的な情報から省略された情報を復元・拡充しながら推測を行うという読みの過程は共通していると推察される。そこで，本研究では物語のなかでも特に推理小説に着目し，その読解プロセスへの示唆を得るために，推理小説に特有の読書嗜好を明らかにすることに加え，詩歌や俳句などと関連する読書嗜好についても探索的に検討することを主眼とする。まず読者が読書におけるどの側面を選好するかという個人差を把捉する読書嗜好性を把捉する読書嗜好尺度を開発する。その上で，推理小説や詩歌などの複数のジャンルの文学作品の読書経験を尋ね，開発した読書嗜好尺度との関連を検討する。ここまで見てきたように，推理小説の読解には予想外の情報や展開を受容する読み方や，推理および推測を行いながら文章を読み進める読み方が関連することが予想される。さらに，後者の推理や推測しながら読み進めることは，推理小説の読書に限ったことではなく，詩歌や俳句の読書にも関連することが予想される。そこで，詩歌や俳句の読書経験との読書嗜好性との関係についても検討を行うこととする。

方法

調査時期　2009年11月に調査を行った。

協力者　調査へ協力した大学生261名のうち，欠測値のあった60名を除く201名を分析対象とした。

材料　以下の2尺度から構成される質問紙を作成した。

1）読書嗜好尺度：深谷（2010）で使用した75項目を使用し，「とてもあてはまる(6)」～「まったくあてはまらない(1)」の6件法で回答を求めた。2）読書経験：深谷（2008）の読書経験調査の「著名な文芸家リスト」50名について，「①既知／未知判断（2件法）」と「②作品読了判断（2件法）」を尋ねた。文芸家の50名の内訳は文豪15名，詩人・歌人・俳人10名，芥川賞受賞作家10名，日本推理作家協会賞受賞作家15名であり，近代文学（文豪），詩（詩人・歌人・俳人），現代文学（芥川賞受賞作家），推理

小説（日本推理作家協会賞受賞作家）への親近性から設定された4カテゴリーそれぞれから選択された（Appendix）。

手続き　材料からなる質問紙を配布し，一斉調査を行った。

結果

1.　読書嗜好性の尺度作成

全75項目を用いて因子分析を行い，因子負荷の小さかった項目および複数の因子に高い負荷を示した項目を除外しながら因子分析を繰り返し，最終的に45項目を使用した5因子を採用した。下位尺度は，「1 展開の意外性受容傾向」（「60　意外な展開になるのが，おもしろい」「先が読めそうで読めない話は，おもしろい」など8項目）「2 共感重視傾向」（「自分にも起こりうるような話が好きだ」「リアリティのある話が好きだ」など10項目）「3 読書回避傾向」（「主人公に共感できない話は，つまらない」「犯人やトリックが途中でわかってしまう話は，つまらない」など12項目）「4 読書熱中傾向」（「小説を一気に集中して読むほど熱中したことがある」「何度も読み返すほど，好きな話がある」など7項目）「5 思索専念傾向」（「読んでいて，頭を使う話が好きだ」「自分で予想しながら読むのが好きだ」など8項目）の5つであり，下位尺度の各項目および因子負荷量，因子間相関はTABLE 1に示した通りである。

因子間相関より，「1 展開の意外性受容傾向」は「2 共感重視傾向」，「4 読書熱中傾向」，「5 思索専念傾向」と正の相関関係にあり，「2 共感重視傾向」は「5 思索専念傾向」と正の相関関係にあり，「4 読書熱中傾向」は「5 思索専念傾向」と正の相関関係にあることが示された。

2.　読書嗜好と読書経験の相関

ここでは読書嗜好と実際の読書経験との関連を検討する。TABLE 2より，「詩人・歌人・俳人」「芥川賞受賞作家」の作家のうち読了済みの作家数の平均値は理論的中央値(5)よりも小さく，標準偏差も2程度と小さかった。「日本推理作家協会賞受賞作家」についても，平均が理論的中央値である7.5よりも小さく，標準偏差も2.5程度と大きいとはいえない値であった。すなわち，本研究で取り上げた文芸家の読了経験は比較的少なかったといえるだろう。

続いて，読書経験の既知の文芸家数および著書を読了済みの文芸家数のそれぞれと，読書嗜好尺度との相関分析を行った（TABLE 3）。既知の文芸家数と読書嗜好尺度との相関分析の結果より，「日本推理作家協会賞受賞作家」の既知数は「4 読書熱中傾向」「1 意外性受容傾向」と正の相関，「3 読書回避傾向」と負の相関がみられた。「芥川賞受賞作家」の既知数は「4 読書熱中傾向」と正の相関がみられた。

また，読了済みの文芸家数との相関分析の結果より，著作を読了済みの「日本推理作家協会賞受賞作家」の数は，「4 読書熱中傾向」「1 意外性受容傾向」「5 思索専念傾向」と正の相関がみられ，「3 読書回避傾向」と負の相関がみられた。著作を読了済みの「詩人歌人俳人」数は，「4 読書熱中傾向」「5 思索専念傾向」と正の相関があり，「3 読書回避傾向」と負の相関がみられた。著作を読了済みの「文

TABLE 1　読書嗜好尺度のパターン行列および基礎統計量（*n*=201）

	1意外性受容（α =.830）	2共感重視（α =.821）	3読書回避（α =.810）	4読書熱中（α =.810）	5思索専念（α =.820）	h^2	*M*	*SD*
60 意外な展開になるのが，おもしろい	.697	.057	-.003	.026	.045	.562	5.15	.93
39 先が読めそうで読めない話は，おもしろい	.650	-.099	-.088	.134	.087	.564	5.07	1.01
68 謎が解決していく話は，好きだ	.561	.026	-.051	-.148	.112	.341	4.82	1.05
37 読んでいて，結末が想像できない話が好きだ	.534	-.089	.048	-.047	.143	.316	4.50	1.13
31 自分の予想と違う展開になるのが，おもしろい	.502	-.015	.119	.140	.218	.477	4.86	1.04
40 最後にどんでん返しがある話はおもしろい	.492	.079	-.034	.078	-.102	.269	5.25	.97
02 自分の予想と外れた展開になり，その意外性をおもしろく思ったことがある	.447	-.143	.072	.243	.045	.315	5.26	1.06
16 どう展開するのか，ドキドキしながら読むのが好きだ	.411	.171	.048	.132	.135	.410	5.08	1.05
57 自分にも起こりうるような話が好きだ	-.004	.703	-.084	.098	-.064	.486	4.51	1.10
71 リアリティのある話が好きだ	.099	.663	-.101	-.230	.008	.423	4.40	1.08
32 自分と共通点のある登場人物のいる話が好きだ	-.096	.617	.188	.215	-.023	.506	4.61	1.13
65 日常的な場面設定の話を読みたい	-.076	.610	-.236	-.059	-.027	.314	4.12	1.22
75 泣ける話を読みたい	-.073	.586	-.027	.006	-.045	.302	4.41	1.44
72 試練を乗り越える話が好きだ	.150	.563	-.173	-.237	.257	.491	4.49	1.18
70 内容がわかりやすい話が好きだ	.251	.561	.097	-.189	-.246	.388	4.37	1.10
33 読んでいて，せつない気持ちになる話が好きだ	-.115	.481	.143	.249	.014	.353	4.37	1.31
14 自分も似ているかも，と登場人物に共感したことがある	-.163	.481	.060	.218	.066	.327	4.73	1.36
47 読後，前向きな気持ちになれる話が好きだ	.231	.427	.037	-.034	-.003	.289	4.66	1.16
43 主人公に共感できない話は，読みたくない	-.273	.076	.598	-.025	.073	.478	2.59	1.24
06 犯人やトリックが途中でわかってしまう話は，つまらない	.169	-.107	.594	.060	.072	.331	3.73	1.51
34 結末が先にわかってしまう話は，つまらない	.174	-.148	.558	-.012	.012	.295	3.54	1.47
54 登場人物が多い小説は，読みたくない	.145	.042	.504	-.291	-.199	.468	3.05	1.39
41 パターン化されている話は，読みたくない	.059	-.112	.504	-.121	.139	.274	3.54	1.33
67 結末が曖昧な話は，つまらない	.191	.000	.496	-.190	-.170	.359	3.66	1.56
50 結末がよくわからない話は，つまらない	.065	.038	.495	-.165	-.163	.357	3.48	1.66
04 読んでいて犯人やトリックがわからないと，イライラする	-.145	-.054	.493	.117	.052	.240	2.85	1.45
13 自分が感情移入できる登場人物がいないと，つまらない	-.198	.140	.493	.104	.018	.310	3.19	1.48
27 難しい地名や単語が出てくる話は，読みたくない	.100	-.025	.454	.064	-.300	.263	3.11	1.36
09 小説は，結末が知りたくて，途中を飛ばして読んでしまう	-.105	.004	.431	.097	-.038	.191	2.09	1.46
42 実生活に役立たないものは，読みたくない	-.314	.006	.406	-.196	.214	.357	2.15	1.07
22 小説を一気に集中して読むほど熱中したことがある	.254	-.128	-.029	.719	-.135	.598	5.21	1.32
25 何度も読み返すほど，好きな話がある	-.030	-.035	.022	.699	-.003	.453	4.74	1.50
51 繰り返し読んでもおもしろい小説はある	.049	-.052	.006	.670	-.006	.454	5.03	1.19
23 小説なので，荒唐無稽な設定でもわりきって読める	.179	.121	-.246	.506	-.211	.427	4.58	1.31
28 人生観が変化するような小説を読んだことがある	-.149	.141	-.135	.453	.227	.396	3.86	1.52
30 現実では味わえない，夢を語っている話が好きだ	.224	.259	.039	.371	-.043	.369	4.48	1.25
56 架空の国や時代の話を読むのが好きだ	.201	.100	.026	.329	-.017	.226	4.44	1.36
64 読んでいて，頭を使う話が好きだ	.113	-.170	-.215	-.034	.662	.507	4.00	1.25
58 自分で予想しながら読むのが好きだ	.254	.199	.025	-.105	.641	.708	4.52	1.19
38 自分でいろいろ考えながら読むのが好きだ	.198	.022	.046	.013	.635	.574	4.65	1.07
20 いつかは答えがわかるだろうから，あまり気にしない（逆転）	-.046	.211	.046	.098	-.530	.233	3.09	1.43
46 現代社会の問題を扱っている話を読みたい	-.111	.210	.041	-.090	.455	.254	3.77	1.36
21「もし，こうだったら」と仮定して考えるのは得意だ	.076	.072	.097	.172	.452	.387	4.16	1.31
24 今後の展開について，シミュレーションをよくする	.189	-.017	.176	.253	.442	.486	3.89	1.44
01 読みながら，「どうして，そういう行動をとったのか」，登場人物の動機や背景を考えることが，よくある	.120	.164	.010	.029	.358	.281	4.58	1.22
因子間相関　1	—	.307	-.111	.383	.438			
2		—	.203	.255	.391			
3			—	-.259	-.064			
4				—	.455			

TABLE 2　読書経験の平均と標準偏差（*n*=201）

	M	*SD*	RANGE
既知の文芸家数			
文豪	11.61	2.49	0-15
詩人歌人俳人	5.92	1.79	0-10
芥川賞受賞作家	4.41	2.24	0-10
推理小説作家	5.95	3.16	0-15
著書を読了済の文芸家数			
文豪	5.82	3.05	0-15
詩人歌人俳人	2.47	2.07	0-10
芥川賞受賞作家	1.62	1.71	0-10
推理小説作家	2.62	2.53	0-15

TABLE3　読書嗜好尺度の基礎統計量と読書経験との相関係数（*n*=201）

	1 意外性受容傾向	2 共感重視傾向	3 読書回避傾向	4 読書熱中傾向	5 思索専念傾向
M（*SD*）	5.00 (0.70)	4.47 (0.75)	3.08 (0.81)	4.62 (0.92)	4.19 (0.85)
既知の文芸家数					
文豪	.091	.035	-.109	.085	.064
詩人歌人俳人	.068	.019	-.043	.076	-.026
芥川賞受賞作家	.097	-.018	-.125	.219 **	.119
推理小説作家	.230 **	-.096	-.186 **	.320 **	.082
著作を読了済の文芸数家					
文豪	.252 **	.091	-.285 **	.367 **	.315 **
詩人歌人俳人	.101	-.005	-.145 *	.255 **	.184 **
芥川賞受賞作家	.136	.024	-.182 **	.272 **	.226 **
推理小説作家	.372 **	.021	-.261 **	.448 **	.252 **

**$p<.01$　*$p<.05$

豪」数は「4 読書熱中傾向」「5 思索専念傾向」「1 意外性受容傾向」と正の相関があり，「3 読書回避傾向」と負の相関があった。著作を読了済みの「芥川賞受賞作家」の数は「4 読書熱中傾向」「5 思索専念傾向」と正の相関があり，「3 読書回避傾向」と負の相関があった。

考察

本研究では，読書における嗜好性や選好の個人差を把捉する尺度を開発し，推理小説や詩歌，俳句の実際の読書経験に特有の読書嗜好性を明らかにすることが目的であった。

深谷（2010）で使用した75項目を用いて因子分析を行い，「1 展開の意外性受容傾向」「2 共感重視傾向」「3 読書熱中傾向」「4 読書回避傾向」「5 思索専念傾向」の5つで構成される読書嗜好尺度を開発した。

尺度の因子間相関より「1 展開の意外性受容傾向－2共感重視傾向」，「1 展開の意外性受容傾向―4読書熱中傾向」，「1 展開の意外性受容傾向―5思索専念傾向」，「2 共感重視傾向―5思索専念傾

向」，「4 読書熱中傾向―5思索専念傾向」の間に正の相関があることが示された。他の尺度との相関がみられた「1 展開の意外性受容傾向」および「2 共感重視傾向」「4 読書熱中傾向」「5 思索専念傾向」の4尺度はともに読書への肯定的な態度である。そのため，これらの尺度の間に関連が見られたことは納得できよう。読書を嗜好するといってもどの側面を好むかは人によって多様であると考えられ，これらの4尺度を用いることでその個人差を捉えることが可能になるといえる。一方，「3 読書回避尺度」は読書を避ける態度を捉える尺度であるため，先の4尺度との明確な相関関係はみられなかったのだろう。

推理小説および詩歌・俳句と関連する読書嗜好性の検討

本研究では，推理小説および詩歌・俳句に特有の読みのプロセスに関する示唆を得るために，これらの読書経験と関連する読書嗜好性を明らかにすることを目的とした。推理小説の読書には，意外な展開を受容しながら読むことや，断片的な情報から先の展開を推測したり，それらの情報を統合することで省略された情報を復元したり情報を拡充しながら読むことを嗜好することが関連することを予想した。さらに，後者の読みを選好することは，詩歌や俳句の読書とも関係すると予想を立てた。

これらの読みの嗜好性は開発した読書嗜好尺度のうち「1 展開の意外性受容傾向」および「5 思索専念傾向」に対応するものと考えられる。「1 展開の意外性受容傾向」は，文章を読み進めていく中で予想に反する展開が起きたり，謎が解けていったりすることを肯定的に捉えるものである。「5 思索専念傾向」は，文章中の断片的な表現から明示されていない情報や省略されている情報を復元および拡充したり，文章中の情報同士および読み手の既有知識を統合して先の展開を推測したりする態度である。

そこで，推理小説および詩歌・俳句の読書経験と2つの尺度との相関分析の結果を見てみることとする。推理小説の読書経験については，「日本推理作家協会賞受賞作家」のうち，既知の作家数と著書を読了済みの作家数を用いた。その結果，推理小説作家の既知数は「1 展開の意外性受容傾向」と相関があり，著作を読了済みの推理小説作家数は「1 展開の意外性受容傾向」および「5 思索専念傾向」と正の相関があった。結果より，推理小説の読書経験と読書嗜好性については予想と一致する結果が得られた。

一方，「詩人・歌人・俳人」に関して，既知の「詩人・歌人・俳人」数はいずれの読書嗜好尺度とも有意な相関は見られなかったものの，読了済みの「詩人・歌人・俳人」数は，「5 思索専念傾向」と有意な正の相関がみられた。すなわち，詩歌および俳句の読了経験についても予想と一致する結果が得られた。

以上の結果より，推理小説の読書経験および詩歌・俳句の読書経験と関連する読書嗜好性について予想と一致する結果が得られ，読者の読書の嗜好性の違いが読書経験と関連していることが示された。

読書嗜好尺度と読書経験との関連

本研究の目的は推理小説および詩歌や俳句の読書経験と関連する読書嗜好性について明らかにすることであった。そのため，読書嗜好性のなかでも，推理小説や詩歌等の読書経験との関連が予想される，推測を嗜好することや意外な展開が起きることを選好することに着目してきたものの，本研究ではより広範な嗜好性の違いを把捉することが可能な尺度を開発することができた。そこで，各読書嗜好性の特徴について探索的に検討するため，読書嗜好尺度と読書経験との関連を検討した。

今回は，読書嗜好性のなかでも特に「1 展開の意外性受容傾向」および「5 思索専念傾向」の2つに着目しているため，まずはこの2尺度と読書経験との関連をみる。「1 展開の意外性受容傾向」は，「文豪」の読書経験と有意な正の相関関係にあった。ここでは，意外な展開が起きることが推理小説に特有なものと想定していたが，文豪の執筆する文学作品の中にも読み手の想定外の展開が起きる作品はあるだろう。今回は近代文学に親近性の高い文芸家を広く「文豪」としてまとめたが，作品の特徴を考慮するなど読書経験を異なる切り口からみて，「1 展開の意外性受容傾向」という読書嗜好性の特徴を検討することも必要であろう。

「5 思索専念傾向」はここで取り上げた全ジャンルの文芸家の読了経験と相関することが示された。多くの作家は意図したことを作品中に明示しないことが多いという指摘もあり（石原，2007），読書時にその後の展開を推測したり，登場人物の心情を予想したりする「5 思索専念傾向」は，必ずしも行間を埋めることや推理を行うことが醍醐味とされるジャンルに特有のものではなく，文学作品一般の読書経験と関連するものであることを示す結果といえるかもしれない。

続いて，「1 展開の意外性受容傾向」「5 思索専念傾向」以外の3尺度について考察をおこなう。「4 読書熱中傾向」および「3 読書回避傾向」はすべてのジャンルとの相関が有意であり，前者は読了経験と正の関係が，後者は負の関係があることが示された。項目の内容から，「4 読書熱中傾向」のは読書を選好する態度全般を指し，「3 読書回避傾向」は読書を回避する態度全般を指すといえるため，これらの態度が読書行動全般と関係するという結果が得られたと考えられる。一方，いずれの読書経験とも関連が見られなかったのは「2 共感重視傾向」である。読書時に登場人物に共感できることを選好する者にとっては，今回分類したような例えばエッセイや自伝など本研究で扱わなかったジャンルの読書経験と関連することが予想されるため，取り上げる文芸家を検討して読書経験との関連をみることもできるだろう。

今後の課題と展望

本研究により推理小説および詩歌や俳句の読書に特有の読書嗜好性と，読書経験全般に関連する読書嗜好性が明らかにされた。すなわち，これまでまとめて扱われてきた物語のなかでも推理小説に焦点を当てることで，そのジャンルに特有の読みのプロセスが見出せる可能性が示唆された。本研究の結果は，読む本の特徴，特に物語の特徴の違いによる読みのプロセスの違いに関する示唆を与えるものといえる。

ただし，本研究で測定した読書経験の測度では，「文豪」以外のジャンルの文芸家は読了経験自体

が全体的に少なく，そのために読書経験と読書嗜好尺度との相関係数が低かったという問題がある。この点に関しては，取り上げる文芸家を再検討することが考えられる。ここでは一般的な文芸家を取り上げることに努めて深谷（2008）を参考に文芸家を選択したが，各ジャンルの文芸家全般を網羅できているとは言い難い。例えば上述したようにエッセイや自伝的な作品は特に注目して取り上げていない。対象となる大学生の読書傾向を反映しながら文芸家を選択することもできるだろう。さらに，同じ文芸家の本を好んで読む者の存在を考慮し，読書経験の尺度を改善することが必要といえる。

なお，開発した読書嗜好尺度については，介入によって変わりうるかという点や再検査法によって信頼性を検討するなど，更なる検討を行うことが必要といえる。また，読書嗜好尺度では読書での選好する側面の違いを把捉することができるが，これは日常生活での読書量や読書への動機づけと関連することが推察される。例えば，「4 読書熱中傾向」は読書全般への嗜好性を測る尺度であるため，この尺度の高さは，読書全般への動機づけの高さや日々の読書時間の長さと関連することが推察される。これらを測る既存の尺度との関連からの読書嗜好尺度の基準連関妥当性を検討することも課題の一つといえる。

また，本研究で開発された読書嗜好尺度のうち，読書一般に関連する「3 読書回避傾向」「4 読書熱中傾向」および，ここでは取り上げていないジャンルの読書との関連性を指摘される「2 共感性受容傾向」については，その特徴を検討するという視点も必要といえる。

最後に本研究で重視していた「1 展開の意外性受容傾向」および「5 思索専念傾向」の2尺度で把捉される読書嗜好性について，今後の課題を述べたい。結果より「1 展開の意外性受容傾向」は推理小説の読書経験との関連が指摘された。現代は，「ユビキタス社会」の到来による断片的な情報でのコミュニケーションが普及している（c.f., 深谷，2013）。このように情報が溢れている社会では情報の取捨選択が重要となってくるといえよう。その際に，意外な展開が起きて予想外の情報を得た場合にその情報を回避するのではなく，うまく受容して他の情報や既有知識とうまく統合していこうとする柔軟な態度が求められていくとも考えられ，このような態度が実際の読みのプロセスとどのように関連するかを検討することが求められる。

一方，「5 思索専念傾向」は推理小説および詩歌の読書経験との関連が示され，読書時に断片的な情報から情報を復元・拡充するような読みのプロセスと関係することが示唆された。このような読みのプロセスを明らかにしていくことは，省略的表現の読解や理解にも有用であることから，ICT（Information and Communication Technology）の進展に伴いリテラシーや読解の概念が変化しつつある現代社会の流れに沿うものといえよう。

加えて，「5 思索専念傾向」は近年必要性が指摘されているリーディング・リテラシーと関連することが推察される。足立（2012）によると，2009年に行われたPISA調査より，我が国の読解力の特徴として，リーディング・リテラシーのなかでも文章に書かれている情報と既有知識や価値観といった文章外部の知識と統合する側面が弱いことが明らかにされた。「5 思索専念傾向」は，既有知識を用いて，文章中に明示されていない情報や省略されている情報を復元し，また文章中の情報を統合

して，作者の意図や先の展開を推測する傾向を指すため，リーディング・リテラシーの「熟考・評価」の側面である既有知識と照らし合わせながら文章の内容を熟考し評価しながら読む力と関連することが予想される。本尺度を用いて実際の読解力との関連をみていくことが今後期待される。

【参考文献】

足立幸子（2012）　リーディング・リテラシーについての展望　全国規模の学力調査における重複テスト分冊法の展開可能性について　平成23年度文部科学省委託研究「学力調査を活用した専門的課題分析に関する調査研究」研究成果報告書，26-32

井関龍太・川崎惠里子（2006）　物語文と説明文の状況モデルはどのように異なるか―5つの状況的次元に基づく比較―　教育心理学研究，54，464-475

深谷優子（2008）　俳句理解における心情把握と読書経験との関連　東北大学大学院教育学研究科研究年報，57(1)167-172

深谷優子（2010）　詩歌および推理小説の読書経験と読書態度との関連(1)―読書態度尺度の開発とその検討―　日本心理学会第74回大会発表論文集，877

深谷優子（2013）　ICT 環境における言語情報の理解　東北大学大学院教育学研究年報　62(1)，115-121

小嶋恵子・波多野誼余夫（1997）　推理小説の解釈の共同構成(1)日本教育心理学会総会発表論文集（39），520

石原千秋（2007）　謎とき　村上春樹　光文社

文部科学省（2010）　OECD 生徒の学習到達度調査 Programme for International Student Assessment ～ 2009年調査国際結果の要約～＜http://www.mext.go.jp/component/a_menu/educa tion/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/07/1284443_01.pdf＞（2014年3月26日）

OECD（2013）　PISA 2012 Assessment and Analytical Framework: Mathematics, Reading, Science, Problem Solving And Financial Literacy, OECD Publishing. ＜http://dx.doi.org/10.1787/ 9789264190511-en＞（2014年3月28日）

Appendix　読書経験調査の文芸家

文豪	夏目　漱石	芥川　龍之介	有島　武郎
	森　鴎外	菊池　寛	山本　周五郎
	島崎　藤村	川端　康成	三島　由紀夫
	志賀　直哉	井伏　鱒二	宮沢　賢治
	武者小路　実篤	井上　靖	太宰　治
詩人歌人俳人	高村　光太郎	石川　啄木	
	中原　中也	北原　白秋	
	吉野　弘	正岡　子規	
	新川　和江	高浜　虚子	
	谷川　俊太郎	中村　草田男	
芥川賞受賞作家	安部　公房	宮本　輝	
	松本　清張	辻　仁成	
	遠藤　周作	平野　啓一郎	
	田辺　聖子	町田　康	
	村上　龍	綿矢　りさ	
日本推理小説協会賞受賞作家	江戸川　乱歩	京極　夏彦	伊坂　幸太郎
	横溝　正史	真保　裕一	綾辻　行人
	小野　不由美	高村　薫	桐野　夏生
	恩田　陸	福井　晴敏	東野　圭吾
	北村　薫	天童　荒太	宮部　みゆき

Development of Scales to Measure Perceived Reading Preference

Yukako NAKANO
（Graduate Student, Graduate School of Education, Tohoku University）
Seiko SATO
（Assistant Professor, Graduate School of Education, Tohoku University）
Yuko FUKAYA
（Associate Professor, Graduate School of Education, Tohoku University）

This study aimed to develop scales to measure perceived preference of reading. Two hundred and sixty one undergraduates answered to the questionnaires including a reading history of famous 50 writers and reading attitude items（75items）. On the basis of the results of factor analysis, we developed five measures to assess the perceived preference of reading; “Openness to Unexpectedness”, “Orientation Emotional Involvement”, “Avoidance”, “Sense of Immersion” and “Concentration on Active Reading”. The reading histories of the both mystery novel and Haiku or poetry related to “Concentration on Active Reading”, and the former also related to “Openness to Unexpectedness”. The relationship between the personal reading histories and the perceived preferences of reading are examined empirically and these results are considered from the aspect of the reading processes which is specific to each category of the reading histories, especial in novels and poetry.

Keywords：Reading, Perceived Reading Preference, Mystery novel, Poetry